



杉浦 辰夫 議員

### 市長4期目の市政運営を問う

**問** 4期目の市政運営に対する決意・想いについて。

**答** 3期12年の間、一貫して貫いてきた高浜市というすばらしいまちや人、そして想いをつぎの世代へつないでいく。新型コロナウイルス感染症という壁を、市民の皆様と協力して乗り越え、未来へともに歩んでいきたい。市民の皆様が、自分たちの暮らすまちをどんなまちにしていきたいか。どんなまちを子どもたちにつないでいきたいかを想い描くだけでなく、着実に実現していくために、不退転の覚悟で取り組む。

第7次総合計画の策定の進捗状況について。

**答** 将来都市像（キャッチフレーズ）は、「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」と決定。進捗状況は、部長級の職員で組織する「高浜市総合計画策定委員会」は、策定基本方針（案）第7次総合計画に向けた

施策動向に関する調査、新しい計画の構成などを審議。「職員策定プロジェクトチーム」は、令和2年度で人工知能を活用した将来シミュレーションの実施に取り組み、将来都市像（キャッチフレーズ）の策定に取り組んできた。

市民参画の組織としての「高浜市総合計画審議会」は、令和3年3月に発足し、14名の委員で、これまでに3回の審議会を開催。

「高浜市の未来を描く市民会議」は、SDGsの考え方を学び、将来都市像（案）を検討。65名の方にメンバー登録。現在は、総合計画の全体構成を踏まえ分野別の構成（案）について、行政内部で議論を進めている。

**問** 感染拡大防止対策や地域経済の回復・活性化に向けて、今後の取り組みについて。

**答** 基本的な感染対策を行うことをより一層推進するために、コロナ禍での避難所運営に対応するための防災備品のさらなる整備、低年齢世代が利用する施設の感染症対策、教育現場における感染症対策対応の物品の強化。

地域経済の回復・活性化にむけては、アフターコロナを見据えて、消費喚起を促すための取り組みを実施。



神谷 直子 議員

### 都市鉱山を探せ

**問** 今年の夏にオリンピックが行われ都市鉱山から作る「みんなのメダルプロジェクト」により、100%リサイクルでメダルが作られました。そのプロジェクトの幹事は障がいをもった方も多数働いてみえる会社で

あるリネットジャパンリサイクル株式会社でした。今回提携に至った経緯は。

**答** 環境省及び経済産業省の認定を受けて、小型家電リサイクルを行っている業者はたくさんあるが、宅配便を利用した事業を行っているのはリネットジャパンリサイクル株式会社しかなく、市民サービスの向上になると考えた。また、近隣自治体とも提携しており、提携に至った。広報などで告知していきたい。

### ゴミなのか資源なのか

**問** 緊急宣言や蔓延防止が繰り返される中、ステイホームで外食が減り、生ごみが増えたと思

う。食品ロスや生ごみを減らすために何か取り組みをしているか。また、そのような取り組みを強化されてはどうか。

**答** 食品廃棄は、国でも様々な取り組みを実施。当市では生活学校を上手に活用し、レシピの考案や実際に調理した結果を発信するとともに今後さらに検討していきたい。

**問** 市長の4回目の決意の中で、今後はSDGsなど持続可能な開発目標の、誰一人取り残さないというコンセプトを政策全般に浸透させ、新たに発生する課題に積極的に取り組んでいくとある。CO<sub>2</sub>削減の目標はあるか。

**答** 第3次高浜市地球温暖化対策実行計画では、平成30年度よりCO<sub>2</sub>排出量を6%削減することを目標に取り組んでいる。クールビズ、使用済用紙の再資源化など、電子入札もCO<sub>2</sub>排出が少ない取組であることを指定している。

**問** 先進的な自治体ではサーキュラーエコノミー（循環型経済）など最初から環境に配慮したものを利用するなどしている。当市では。

**答** 環境省からも循環経済を進めよとあるが、行っていない。まずは先進地の調査研究から始めたい。